

保育計画成果報告書

法人名等	(株) 創遊舎
施設名	千木の森やまびこ保育園
報告者(役職)	犬束 恵美 (主任保育士)
住所・連絡先	長崎県大村市向木場 1197-1
	☎ 0957-50-0045
	E-mail chiginomoril102@gmail.com

○タイトル (保育計画)

五感を育む砂場遊び

○主な助成備品

ログ砂場 ガーデンテーブルセット ワゴン 砂場セット 砂 手押し車 スコップ

1. 保育計画策定の目的

当園は、小規模保育園と認可保育園が同じ敷地内にあり、異年齢の子ども達に関わり合い遊んでいます。子どもが豊かな実体験を通して自ら考え、学び成長していく姿を支えていきたいと考えています。

子ども達が、夢中になって遊ぶ魅力的な遊びの一つに、砂場遊びがあります。砂は、遊びの素材として優れた性質を持っています。0歳児～年長児まで年齢に応じた遊びを展開する事が出来、人間が持っている様々な感覚を使って遊びこめる体験が出来ます。また、小さい子どもが大きい子どもから遊び方を学んだり、友だちと協力して一つの物を作り上げる体験が出来ます。

そのような砂場遊びの中から、生きる力を育んでほしいと願い、保育計画を策定しました。

2. 具体的な実施内容

園庭の中には、固定遊具がなく簡易鉄棒と砂場があります。砂場遊びは、子ども達が夢中になって遊ぶ遊びの一つです。今回、子ども達が好きな砂場遊びが更に発展出来るように、保育計画を策定しました。

環境構成としては、小屋や砂場の近くに砂場道具やベンチや机を置きました。また、ログ砂場には泥団子用の砂を入れ、泥団子が作れるように水道の近くに設置しました。どの年齢の子ども達も砂場で遊び込める環境を設定しました。

0歳児



手で触った砂の手触りを感じています。水を含まない砂は、手からサラサラとこぼれ落ちます。2歳児の子どもが手に砂をのせて、下に落としている様子を0歳児の子どもが眺めています。何度も同じ事を繰り返して遊んでいました。

裸足で砂の上に座ると、ひんやりとして気持ちがいいようです。手にスコップを持っていますが、スコップで砂をすくうのが難しかったようで、手で砂を掴もうとしています。

水を含んだドロドロ砂は、手につくとなかなか取れません。泥を触った手の平を眺めながら、手についた泥を取ろうとしています。砂や泥の感覚遊びは、子ども達の五感の発達につながります。五感の発達は、子どもの脳を活性化させます。

1歳児



手先を自分の意思で動かせるようになった子ども達は、二輪車やコップ、スプーン、お皿など色々な道具を使って砂場遊びをしています。手先が自由に使えるようになり、足で踏ん張る力がつき、二輪車なども押して歩く事が出来るようになります。体全体を使って遊ぶ事が出来るようになります。

2歳児



ひなたに置いてあったベンチの上で、座って遊んでいましたが、太陽の暖かさを感じて横になっています。ベンチは、座るだけでなく横になってくつろげる場所にもなります。

玩具の形を見て、トンネルを想像したようです。友だちと一緒に長いトンネルを作っています。道具を運ぶ子ども、つなげる子ども、自然と役割分担ができています。

また、同じ玩具でも下に水を流して水路にしたり、砂山の上から並べて水を流したり、いろんな使い方を考え遊びが発展しています。



3～5歳児



泥団子用の土で作った泥団子です。水を少しずつ含ませながら、固さを調節して作っています。表面がつるつるしたきれいな泥団子を作る為に、サラサラした砂を最後にかけて日なたに置きました。泥団子作りは、試行錯誤の繰り返しです。

サラサラだった砂が、水を含むと泥になり、見た目も触り心地も変わる様子は、子どもにとっては新鮮な体験です。

みんなで協力して、砂山作りをしています。二輪車で土を運び、大きなスコップで砂をかけていきます。

そして、ジョウロで水をかけ、山が崩れない様に固めていきます。

出来上がった山にトンネルを掘りました。山を崩さない様にトンネルを掘る為には、どうすればいいかを子ども達同士で話し合いながら作っていました。みんなで協力して、子どもが入れるくらいの大きなトンネルが出来ました。

砂場遊びをする中で、土の性質を知り、試行錯誤しながら友達と協力して作りあげた山とトンネルに、子ども達の表情も達成感にあふれていました。



みんなで作った山に登る為の階段を作っています。始めは、山肌に置いて作っていましたが、登って行くうちに崩れてしまいました。

それを見ていた保育者が、玩具に砂をかけ始めると子ども達も気づき、玩具を山肌に埋め始めました。

埋める為には、どのように土をかぶせればいいのかを小さい頃からの砂遊びの体験で分かっているようです。土をかぶせた後は、手の平や足で土を固め、崩れない階段が出来ました。

山からの階段が下の方までつながっていき、そこに子ども達が一人ずつ立っています。並べて置いてある玩具を見た子ども達が、そこに立つ事で「順番に並んで登る」というルールが遊びの環境から作り出されています。視覚に働きかける環境を通したルールは、子ども達も自然と守っています。



3. その成果と評価

砂や砂場遊具が増えた事で、子ども達が今までより砂遊びに集中する事が出来るようになりました。

砂遊びは、0歳児から感覚遊びとして、五感を刺激します。手についた砂を不快に感じる子どもいれば、口に入れてみようとする子ども、土の感触を楽しむ子どもと様々です。砂は、サラサラしていたり、水を加えるとドロドロしたり、いろんな状態に変化します。そんな砂の性質を感覚で学んだ子ども達は、砂や道具を使って形のあるものを作り始めます。作ったものを使って友達とごっこ遊びをしたり、友達と協力して大きな山作りに挑戦したり、いろんな遊びに発展していきます。

また、子どもだけでなく、保育者も夢中になって遊んでいました。砂場遊びは、何年経っても遊び方は変わらないものだと思います。大人が小さい頃に遊んだ体験を、子どもと一緒に遊びながら教えていけるものです。

砂場遊びは、五感を刺激し脳を刺激して、人が生きていくうえで必要な事を遊びながら学んでいける遊びだと思います。

4. 今後の課題と展望

砂場遊びは、子ども達がいろんな遊びを展開すればするほど、砂がなくなっていくます。子ども達の豊かな遊びの展開の為に、砂の補充がかかせません。また、砂場道具も遊びから色々な体験が出来、季節を通して様々な遊び方が出来るような工夫をしていきたいと思っています。

今後も、子ども達が生き生きと遊べる環境を作っていきたいと思っています。

以上